



第16号

(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

納涼大会のおもいで

伊藤和美

廣讚寺同朋会が創立されて、会の運営・行事内容が検討された。そのメイン行事の一つとして、納涼大会が決定された。

大会のスローガンは「親子で夏の夜を」である。お化け屋敷 詰め将棋・金魚すくい・花火等であった。参加された親や祖父母には、本堂内での落語・津軽三味線・民謡が用意された。会場は電球や万国旗、ちょうちんで飾った。

お化け屋敷で泣きだす子、花火で喜ぶ子、詰め将棋で残念がる子、金魚を余分に二匹袋に入れてやると喜ぶ子、いい思い出が残る。その半面、お化け役の係を中学生が脅したり、花火は危険であり、詰め将棋はやる子も少なく、本堂内の余興は見る人も少ない等で四年目で内容を見直した。

本堂内の余興の変わりに、おでん・みたらし・ジューズ・トウモロコシを販売することになっている。お化け屋敷の変わりに輪投げを導入した。金魚を持ち帰り育てることもなくなったのか初期の半分の量である。

変わらないのは参加人数で、二百人から二百五十人である。三十三年目の今年も多くの子が参加されるように望みたい。会員の皆さま、初期のスローガンを思い出し、各担当でガンバリましょう。



聖人のおことば

『日本源空聖人ノ、ノタマハク。

選択本願念佛集ニイハク、南無阿弥陀佛、往生之業、念佛爲本トイフハ、安養淨刹ノ往生ノ正因ハ念佛ヲ本トスト申スミコトナリ。
正因トイフハ浄土へ生ルルタネト申スナリ』

日本源空聖人とあるのは親鸞聖人の常に申されていた「ひとへに法然聖人による」とのことである本師源空聖人のことである。

日本とあるのは三国伝来の仏法が聖徳太子とこの源空聖人によって末法の世にふさわしく他力念佛として、美しい花を咲かせたよろこびの声でもある。旧佛教の世界から脱皮した新生日本の光明を宣言しておられるのである。無明長夜は涯はてしない。智眼は暗い。しかし

ながら、生死の海に聞こえる弥陀の呼び声に応えなければならぬと、南無阿弥陀仏と応えなさいと申しみえるのである。

J Aでの法話

四月二十一日、J A名古屋本店で名古屋別院輪番小笠原信昭師の法話に参加した。

農作業は多様にわたるが、ひとくちについて土をつくることであり、土の浄化である。そうすれば作物は立派に実る。人間も同じこと。心すなわち魂の浄化が必要である。

「巧言令色鮮すくなしは善」今の世は裝飾が多すぎる。そして眞実を失っている。

「邪見憍慢悪衆生」の自覚を持つことがまずは必要ではなからうか。

毎年の同朋会の日旅行は私のたのしみの一つである。

参加した方々からの一人一言をあつめた。

これも新米委員の初仕事である。

◎ 午前八時、若院の

「いってらっしゃい」

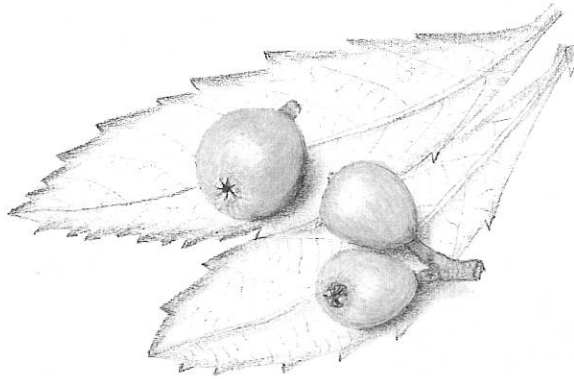
の声で出発。牧の原

の茶畑は最高の景色

であった。来年度を

たのしみにしている。

(守)



◎ 駿河路や

裾は隠して

富士の山

(政)

◎ 念仏を

同朋みんなでとなえ

春の寺

(佐)

お宮の犬

五月八日の早朝である。お宮の犬の死を知らされた。

場所はお宮の東K様宅の裏雑木林である。発見、そして

報告して下さったのは新聞配達Sさんである。

駆けつけたIさんは明けやらぬ薄暗い霧もやの中で涙にく

れた。父親犬とうさんいぬが横になっている。母親犬かあさんいぬと子供犬ちびちゃんいぬが臨終

に立ち会ったままの姿勢でクンクンと泣いた。

「芥ごみにはさせないからネ」とIさんは持参した毛布に包

み段ボールに納棺した。

二本の脚のはみでたまま八事に直行した。残った二匹

の犬の世話のことよりも、まずは父親犬の一生を飾って

やりたかった。



※行事予定

七月十一日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(日) 二時～四時 学習会

十九日(日) 六時半 納涼大会

金魚すくい・輪投げ・

ビンゴ大会など…

楽しい催しものがいっぱい。

どなたでもお気軽にご参加ください。



八月八日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(水) 二時～四時 学習会

二十八日(金) 十時 二十八日講・女人講